

麻生区区民会議 第6回専門部会 市民活動・絆づくり部会 議事要旨

- 1 開催日時：平成29年5月25日（木）午後3時～午後5時
- 2 開催場所：麻生区役所 第4会議室
- 3 出席者：[専門部会委員] 植木昌昭委員、緒方保委員、海崎眞委員、佐藤昇平委員、佐野幸子委員、鈴木隆広委員（部会長）、関根秀勝委員、高橋慶子委員（副部会長）、松田通委員
[事務局] 企画課 安藤課長、榎本 [コンサルタント] 中島、永野

4 傍聴者：0名

5 議 題：

1. 調査・審議課題の検討について

(1) 前回の審議内容の振り返り

- ・『(仮称) 市民活動・絆づくり検討部会』における前回の審議内容を振り返った。

(2) 今後の調査審議方法を考える

1) 調査審議方法について

- ・コンサル及び事務局より市民フォーラム等の事例を紹介した。
- ・(仮称) 市民フォーラムのイメージの共有や目的について意見交換が行われた。

【今後の方向性】

- | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・「(仮称) 市民フォーラム」の目的は普段活動に参加していない人に地域活動に関心を持ってもらうこと（担い手づくりのサイクルに乗ってもらうこと）という合意が得られたため、今後は規模や枠組みについての検討を行うこととなった。 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【主な意見】

- ・やまゆりでは会場のスペースの問題があること、関係者主体で終わってしまうことという問題がある。一般の人に参加してもらうという観点からは、ある程度大きな規模で市民フォーラムを開催することが提言として意義があるのではないか。今回の提言では、来年以降スタートできるような体制や枠組みについて考えるところまでとなるのでは。
- ・市民フォーラムをやるのであれば、その目的として活動団体自体の活性化（パワーアップ）の視点も必要ではないか。
- ・区民まつり、福祉まつり、やまゆりの活動等の既存の取組が存在するため、市民フォーラムの実現を区民会議として提言するのであれば、既存の取組との差別化を図る必要がある。
- ・普段活動に参加していない人をいかに呼び込むかが重要であって、参加団体がただ盛り上がっても差別化を図れない。既存の取組では結局普段活動に参加していない人が辿りつけていない。

- ・区民まつりは賑わいが特徴であるが、市民フォーラムでは市民活動をもっと知ってもらうことを主眼とするべき。
- ・小規模でもいいから、具体的に参加団体の活動を紹介する試みも考えられるのではないか。
- ・区民まつり、福祉まつりは不特定多数の人間が集まるため、フォーラムの前段階として既存のイベントへの展示等も考えられるのではないか。
- ・小規模なイベントにしても、今回の提言では時間的に無理ではないか。既存の取組を参考にしつつ、新たな視点で絆づくりのための土台を考えていくべきではないか。
- ・既存のイベントでは参加団体でも抽選になってしまう現状があるため、一般の人も参加しやすいフォーラムの土台作りを考えていくことが良い。
- ・地域の繋がりは大切といったハードルの低いテーマの講演会も実効性があると思う。最終的にフォーラムだとしても、単発で終わっては意味がない。
- ・フォーラムなりカフェなりの青写真を描いたうえで、需要や意向（内容、時期、方法等）について活動団体へのアンケート調査を行うことも有用であると思う。根拠となる声を拾った方が開催の説得力の増加につながると共に、そのような声を反映させていることが区民まつり等との差別化になるのではないか。
- ・フォーラムなりカフェなり、規模の問題はあるが、いずれにしても既存の取組と組み合わせるのは難しいのではないか。

(3) 部会名について

- ・部会名について、「市民活動・絆づくり部会」とすることとした。

2. その他

- ・第6期全体テーマ（案）「心がかよう魅力あるまち あさお」が了承された。
- ・事務局より、7月18日（火）の全体会議後、懇親会を開催する旨伝えられた。
- ・次回は事務局が「市民自治創造・かわさきフォーラム」が麻生区で開催された際の資料や他の集まりの資料等、麻生区内の事例を用意することとした。

以 上